

学校の概要

下田市立下田小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	23
児童数	74	77	69	74	77	60	3	434	

実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

共に学び、高め合う授業  
- 個に応じたきめ細かな指導の充実を求めて -

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数(低学年段階から習熟の違が見られたり、理解の仕方やものの考え方が多様化したため。)  
全学年 国語(追求課題や追求方法の興味・関心が多様化したため、書く力や言語事項に関する力などに低学年段階から習熟の違が見られたりするため。)

(2) 年次計画

平成  
14  
年  
度

テーマ 個が生き、共に学び合う授業  
- 「少人数指導」と「相互交流活動」の充実を通して -  
仮説 「相互交流活動」を中核に据え、「少人数指導」を効果的に推進するならば、子供一人一人が内在する力を発揮し、基礎・基本を身につけながら伸び伸びと表現する子を育成することができる。  
研究内容・方法 「学力」についての共通理解  
学校教育目標とこれを具現する中核となる研修との関わりをおさえながら本校の学力観を検討し、共通理解を図った。  
「少人数指導」の方向性  
個に応じたきめ細やかな指導を保證する「少人数指導」の在り方について授業実践を通して検討し、方向性を探った。  
「評価」方法の検討  
学力の定着を検証する「評価」方法を検討し、日々の積み重ねの中で、評価規準に基づく質的評価の方向性を探った。

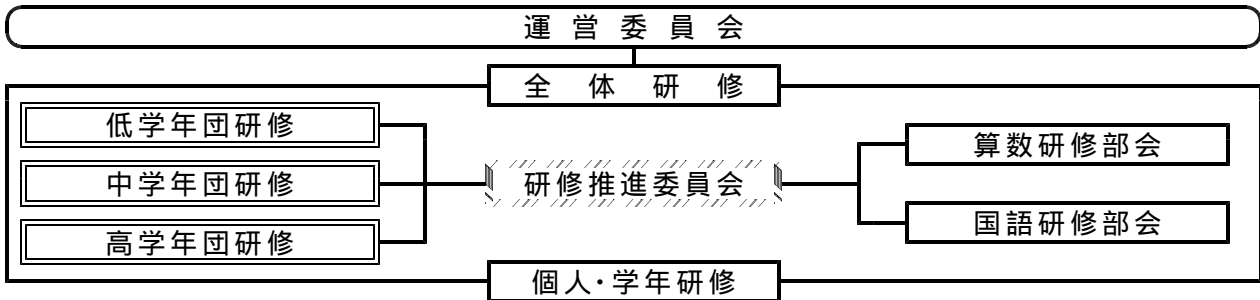
平成  
15  
年  
度

テーマ 共に学び、高め合う授業  
- 個に応じたきめ細かな指導の充実を求めて -  
仮説 「児童理解」、「授業構想」、及び「支援と評価」の有機的な関連を図り、個に応じたきめ細かな効果的に推進するならば、子供一人一人が内在する力を発揮し、生涯にわたって生きて働く確かな学力を育成することができる(研究テーマを受け変更)。  
研究内容・方法 研究組織の再編  
窓口教科に対応する算数研修部と国語研修部を設置すると共にPTAの打ち合わせの時間を確保し、テーマの具現に迫った。  
TT、及び少人数指導の工夫、改善  
TT、及び少人数指導の在り方について、授業実践を通して継続的に検討し、よりよい方向性を探った。  
評価方法の検討  
授業レベル、単元レベルにおける評価方法を検討し、評価と支援、指導の一体化を図る試みを重ねた。

平成  
16  
年  
度

テーマ 共に学び、高め合う授業  
- 個に応じたきめ細かな指導の充実を求めて -  
仮説 「教材開発」、「指導方法・指導体制の工夫」、及び「評価を生かした指導」を一体的に推進し、個に応じたきめ細かな指導を充実するならば、子供一人一人が内在する力を発揮し、生涯にわたって生きて働く確かな学力を育成することができる。  
研究内容・方法 ねらいの精緻化と教材開発  
発達段階に応じたねらいの精緻化を図り、それを具現する教材、素材の開発を推進する。  
TT・少人数指導の充実  
領域や単元の組み換えに対応したTT、少人数指導の方向性を探り、指導体制・指導方法の更なる充実を目指す。  
評価と支援、指導の一体化  
授業、及び単元ごとの質的、量的評価を蓄積する中で、支援、指導に生きる評価の在り方を明確にする。

(3) 研究体制 (平成15年度)



\* 「フロンティアの打ち合わせの時間」を定例的(火・金曜日、16:00～16:45)に位置づける。

\* 各組織(運営委員会、全体研修、研修推進委員会、研修部会、学年団研修、学年研修個人研修)の有機的な関連を図る。尚、必要に応じて研修推進委員会を開く。

平成15年度の成果及び課題

**成果**

- ・窓口教科のねらいを明確にし、それを実現する教材、素材の工夫をしながら授業実践を重ねることができた。
- ・教科の特性に応じたTT、少人数指導を検討し、授業実践を通して単元の内容と指導体制の在り方などについての共通理解を図ることができた。
- ・評価と支援、指導を一体化するための方策を検討し、授業や単元のレベルでどのように実現するかについて検討し、次年度への見通しをもつことができた。
- ・学年研修としてフロンティアの打ち合わせの時間を定例的に位置づけ(火・金曜日、16:00～16:45)、教師の持ち味を生かした協力的な指導を推進した。

**課題**

- ・発達段階に応じたねらいの精緻化を図り、それを具現する教材、素材の開発を推進する。
- ・領域や単元の組み換えに対応したTT、少人数指導の方向性を探り、指導体制・指導方法の更なる充実を目指す。
- ・授業及び単元ごとの質的、量的評価を蓄積する中で、支援、指導に生きる評価の在り方を明確にする。
- ・国語研修部、算数研修部(縦軸)を核とした研究を推進し、学年研修(横軸)との有機的な関連を図る中で研修組織を強化していく。

学力把握のための学校の取組について

**評価の蓄積**  
ノートや座席表などを活用しながら、単位時間毎、単元毎の評価を蓄積し、子供一人一人の表れを継続的に観察している。

**定着度調査の比較**  
定着度調査を活用し、調査結果を基に年度毎の学力の変容を客観的に捉え、指導に生かしている。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

平成14年度 研究発表会〔平成15年1月31日(金)〕の実施

賀茂地区を中心とした教職員約140名が参加し、学力向上フロンティア事業の趣旨、及び研究成果を発表した。

平成15年度 研究発表会〔平成15年11月27日(木)〕の実施

賀茂地区を中心とした教職員約180名が参加し、学力向上フロンティア事業を受けた本校の研究概要、及び成果を発表した。

平成16年度 研究発表会〔平成16年10月26日(金)〕の開催

賀茂地区の小・中学校を中心に授業公開や研究報告をし、学力向上フロンティア事業の研究概要、及び成果を発信する。

ホームページによる発信

HP (hp:www.izu.co.jp/~simosyo) に於いて、学力向上事業に取り組む本校研究の概要を紹介している。

次の項目毎に、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	TTによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		